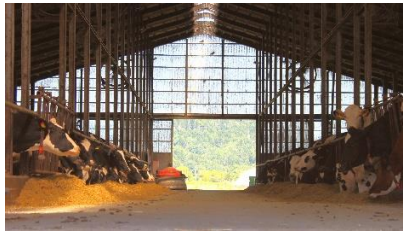


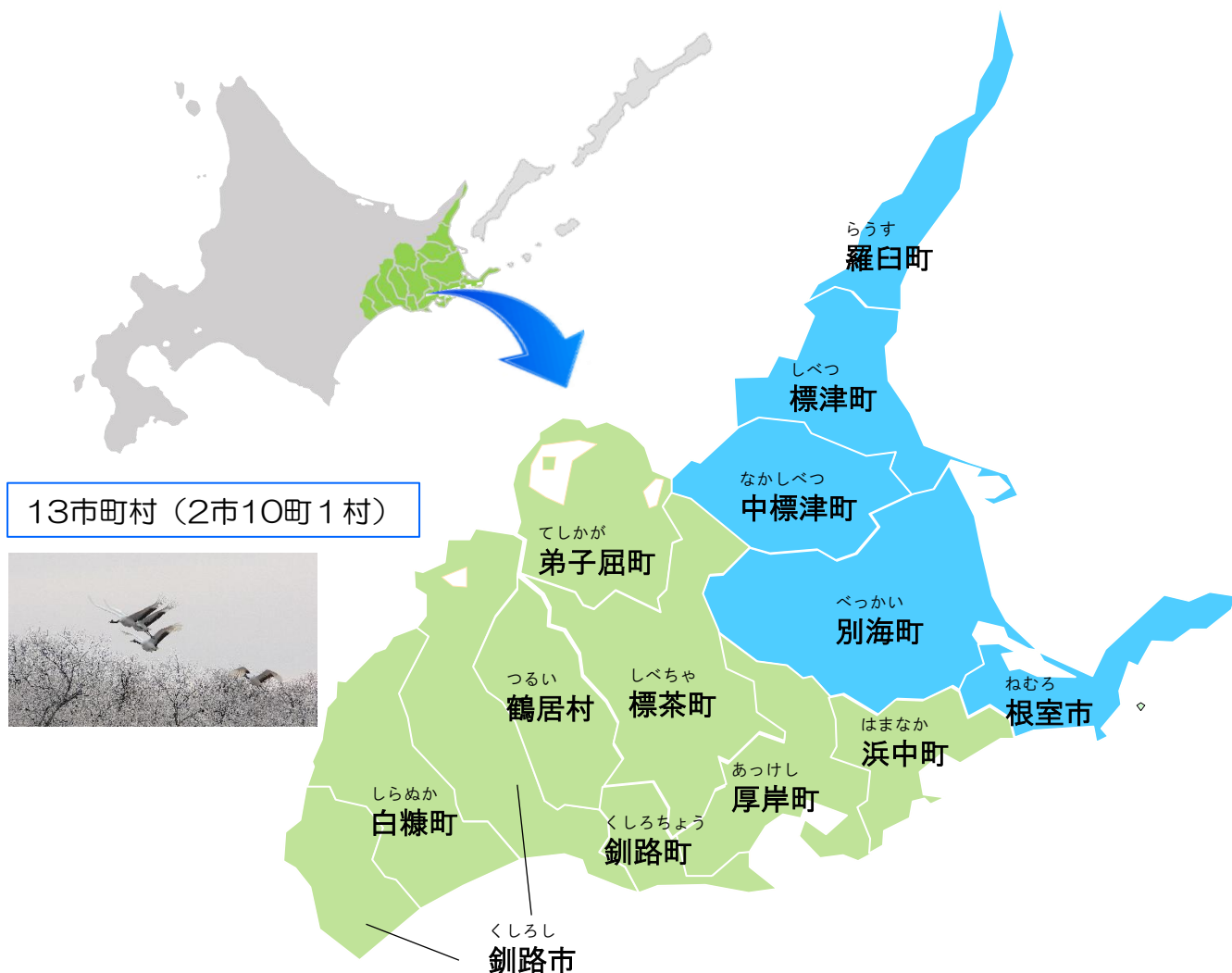
# 釧路・根室地域の概要



北海道農政事務所  
釧路地域拠点

## 第1 地域の概況

- ◇位置：北海道の東部に位置し、北東部はオホーツク海に、南部は太平洋に面し、北部は千島火山帯の阿寒山系を境にしてオホーツク地域に、西部は直別川ちよくべつがわで十勝地域に接している。
- ◇気候：春から夏にかけて「じり」と呼ばれる霧が発生し、「湿潤冷涼な夏」は天然の避暑地になると同時に、湿原の乾燥も防いでいる。秋冬には晴天の日が続き、年間日照時間は国内有数の長い地域。冬は「乾燥寒冷な冬」となる。沿岸部では海洋性気候、内陸部では大陸性気候を示し、年平均気温は、5℃～7℃と冷涼であり、オホーツク海域は、冬期間流氷に閉ざされ、厳しい寒気に見舞われる。
- ◇世界自然遺産に登録されている知床に加えて、阿寒・摩周、釧路湿原と3つの国立公園があるなど、森林、湖沼、海岸と豊かな自然に恵まれた地域となっている。



◇広大な牧草地を利用した道内でも屈指の酪農地帯

◇牧草専用地の面積は北海道の4割を占める

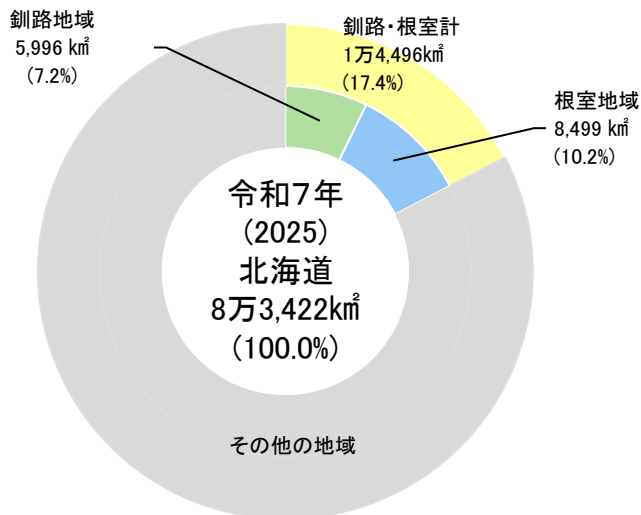


## 第1 地域の概況(つづき)

◇総土地面積は1万4,496km<sup>2</sup>(釧路地域：5,996km<sup>2</sup>、根室地域：8,499km<sup>2</sup>)で、北海道の17.4% (同：7.2%、同：10.2%)を占めている。

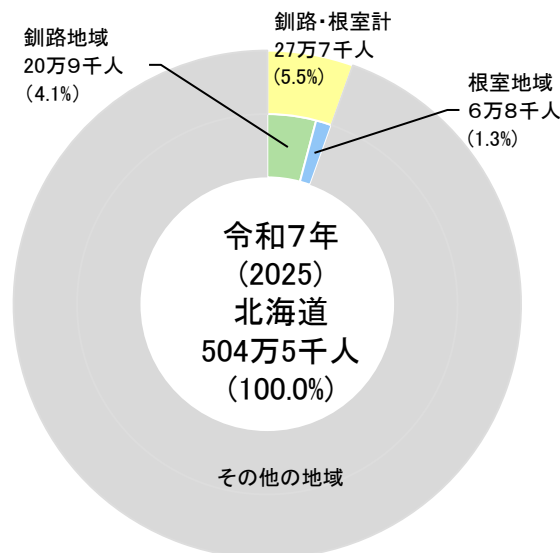
◇総人口は27万7千人(同：20万9千人、同：6万8千人)で、北海道の5.5%(同：4.1%、同：1.3%)を占め、総人口の約56%を釧路市(15万4千人)が占めている。

総土地面積



資料：国土交通省国土地理院「令和7年全国都道府県市町村別面積調(令和7年7月1日)」  
注：四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある(以下同じ)。

人口割合



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和7年1月1日)」

## 第2 農業の概要

◇広大な牧草地(道内の4割)を利用した国内最大の酪農地帯である。

◇乳用牛の飼養頭数、生乳生産量で北海道のトップを誇り、地域の重要な基幹産業となっている。

◇労働力低減に向けた大型搾乳施設の更新、先端技術を取り入れた搾乳機器等の導入や、コントラクター(農作業受託団体)、TMRセンター<sup>\*1</sup>などの外部支援組織の設立などにより、1経営体当たりの乳用牛飼養頭数は増加しており、規模拡大が進んでいる。

※1 TMRはTotal Mixed Rationの略で粗飼料、濃厚飼料、添加物等をバランス良く混合した牛の飼料のこと。TMRセンターは、TMRを製造し、畜産農家に供給する組織



広大な放牧地で草を食んでいる子牛



牧草の収穫

# 1 農業構造の状況

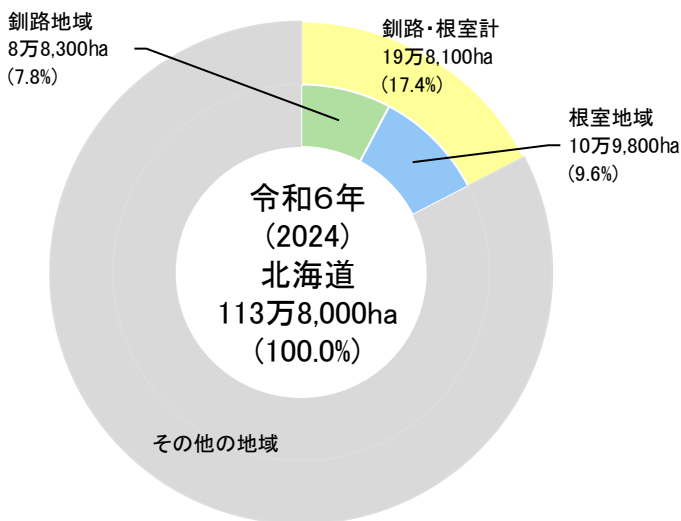
## 耕地面積

- 耕地面積は19万8,100ha（釧路地域：8万8,300ha、根室地域：10万9,800ha）で、北海道の17.4%（同：7.8%、同：9.6%）を占めている。
- 市町村別の耕地面積は、別海町(31.9%)、標茶町(14.6%)、中標津町(12.3%)の順となっている。
- 牧草専用地の面積は17万2,429ha（同：7万2,306ha、同：10万123ha）で、北海道の41.4%（同：17.4%、同：24.1%）を占めている。
- 経営耕地面積※1に占める牧草専用地の面積割合は88.5%、1経営体※2当たりの牧草専用地面積は78.9ha（同：76.8ha、同：80.4ha）で、広大な草地を利用して粗飼料が生産されている。

※1 「2020年農林業センサス」結果による経営耕地面積(19万4,783ha)

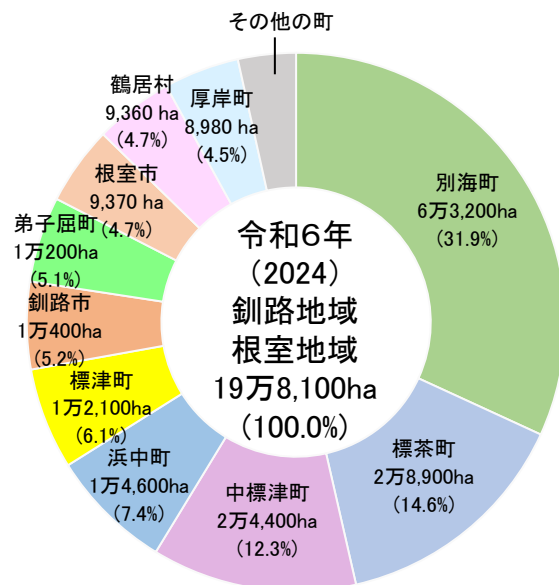
※2 「2020年農林業センサス」結果による牧草専用地のある経営体数(2,186経営体)

### 耕地面積の割合



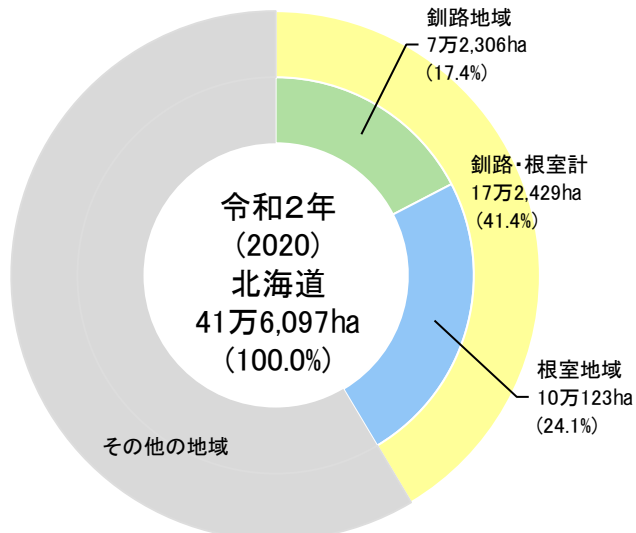
資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」、「農林水産関係市町村別統計」

### 市町村別耕地面積の割合



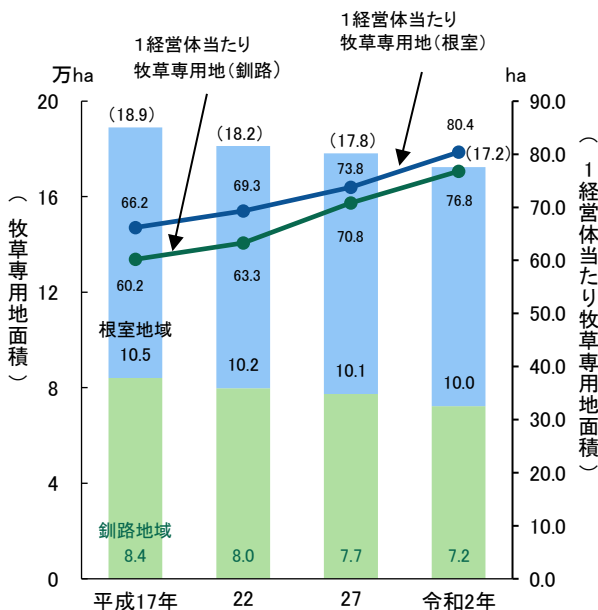
資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計」

### 牧草専用地の面積割合



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 牧草専用地面積の推移



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」(肉用牛含む)

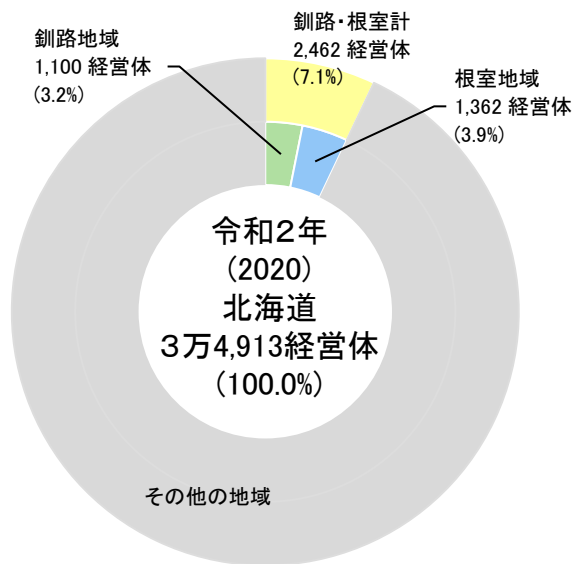
## 農業経営体

- 農業経営体数は2,462経営体（釧路地域：1,100経営体、根室地域：1,362経営体）で、北海道の7.1%（同：3.2%、同：3.9%）を占めている。
- 農業経営体数（2,462経営体）は、5年前の2,757経営体と比べて295経営体（10.7%）減少している。このうち法人経営体<sup>※1</sup>数は449経営体で、5年前の354経営体と比べて26.8%増加している。
- 農産物販売金額1位の部門別経営体数は酪農（82.0%）が最も多く、次いで肉用牛（6.9%）の順となっている。
- 基幹的農業従事者<sup>※2</sup>数は4,885人で、5年前（6,374人）に比べ23.4%減少し、年齢層別に49歳以下の青年層で23.0%減少、50歳～59歳以下の層では39.6%減少している。また、基幹的農業従事者の平均年齢は釧路地域が55.1歳、根室地域が53.5歳となっている。

※1 農業経営体のうち、法人化して事業を行う者（一戸一人を含む。）

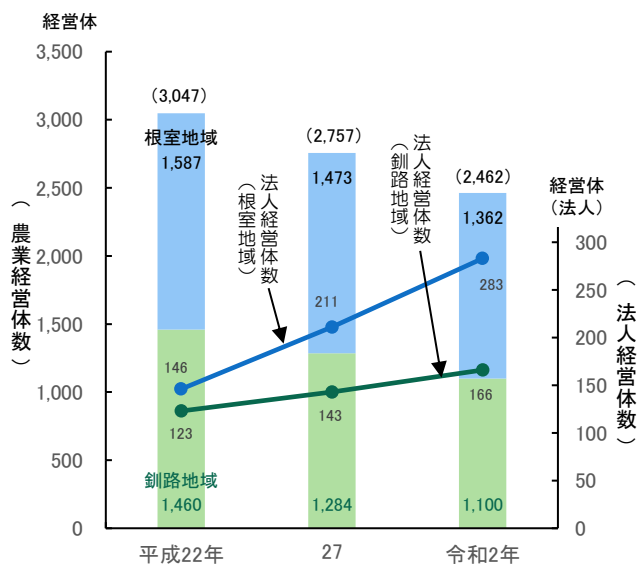
※2 15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者

### 農業経営体数の割合



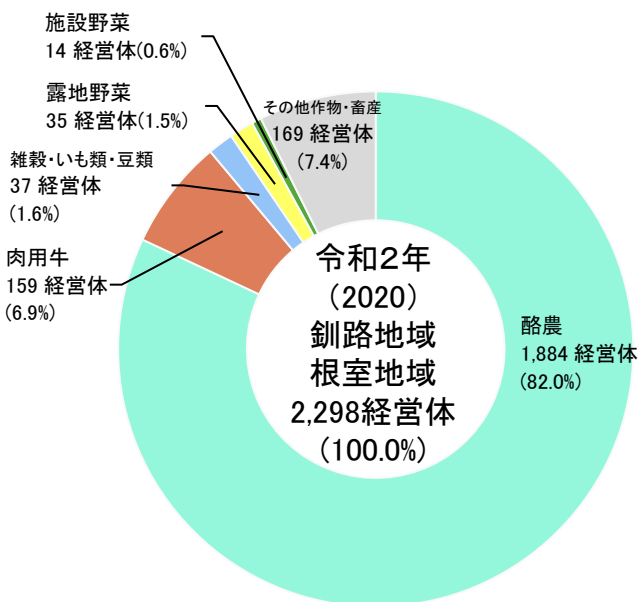
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 農業経営体数の推移



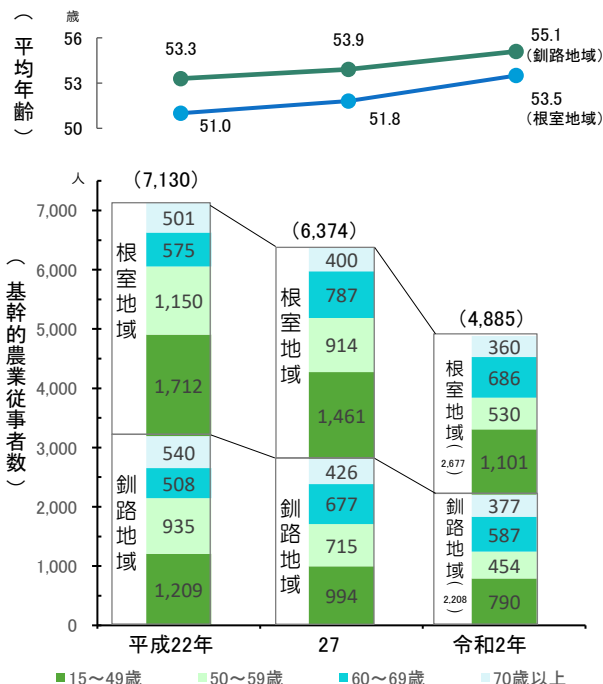
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 農産物販売金額1位の部門別経営体数割合



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 個人経営体の基幹的農業従事者数と平均年齢

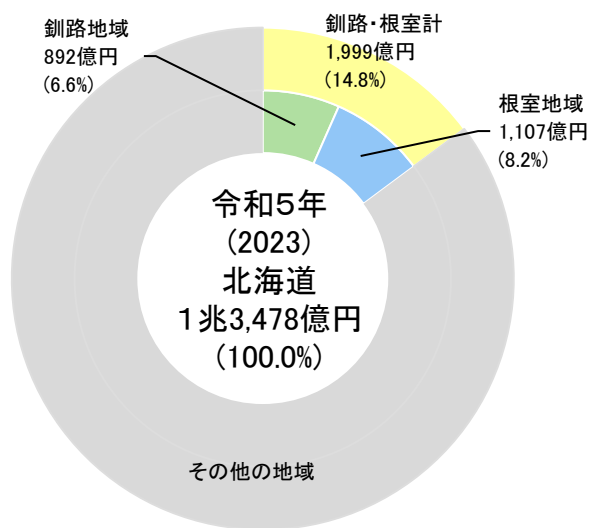


資料：農林水産省統計部「2020年農林業センサス」、「2015年農林業センサス」（組替集計）、「2010年世界農林業センサス」（組替集計）

## 農業産出額

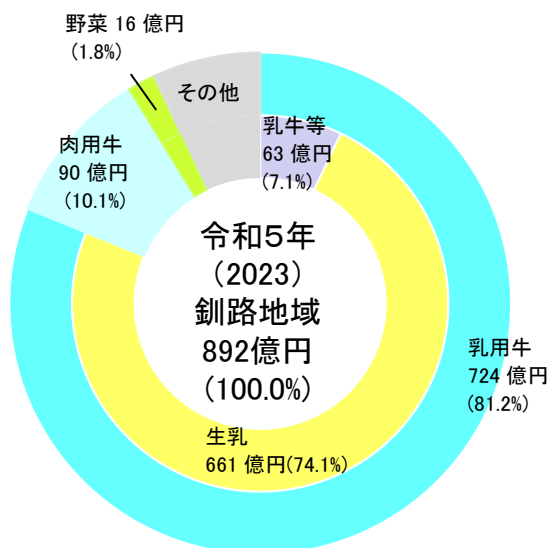
- ・農業産出額は1,999億円（釧路地域：892億円、根室地域：1,107億円）で、北海道の14.8%（同：6.6%、同：8.2%）を占めている。
- ・品目別では、乳用牛が1,760億円（同：724億円、同：1,036億円）と最も多く、このうち生乳は1,600億円（同：661億円、同：939億円）、生乳以外の乳牛等（乳廃牛等）は160億円となっている。次いで肉用牛が119億円となっており、その他畜産を含めた畜産部門が全体の97.8%を占めている。
- ・耕種部門では、高収益作物である施設野菜等の野菜が22億円（同：16億円、同：6億円）と最も多く、その他として、小麦、そば、ばれいしょ等が生産されている。
- ・市町村別の農業産出額は、別海町が最も多く639億（道内1位、全国4位）、次いで標茶町が287億円（道内7位、全国42位）、中標津町が251億円（道内9位、全国56位）の順となっている。
- ・「市町村別農業産出額（推計）」は、都道府県別農業産出額を農林業センサス及び作物統計を用いて市町村別に按分して作成したものである。

### 農業産出額の割合



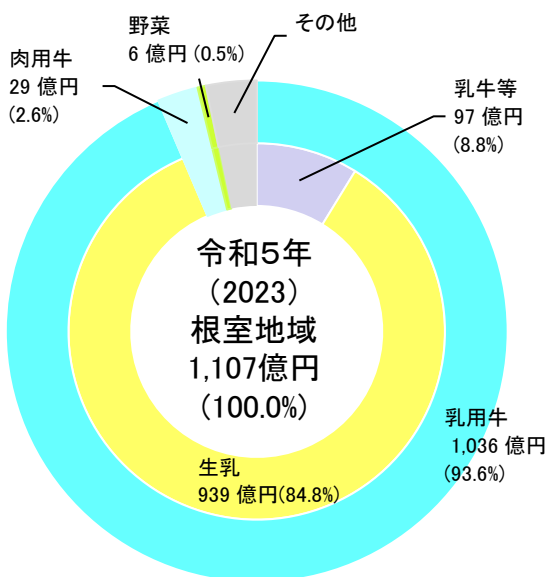
資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」、「市町村別農業産出額（推計）」

### 品目別農業産出額の割合（釧路地域）



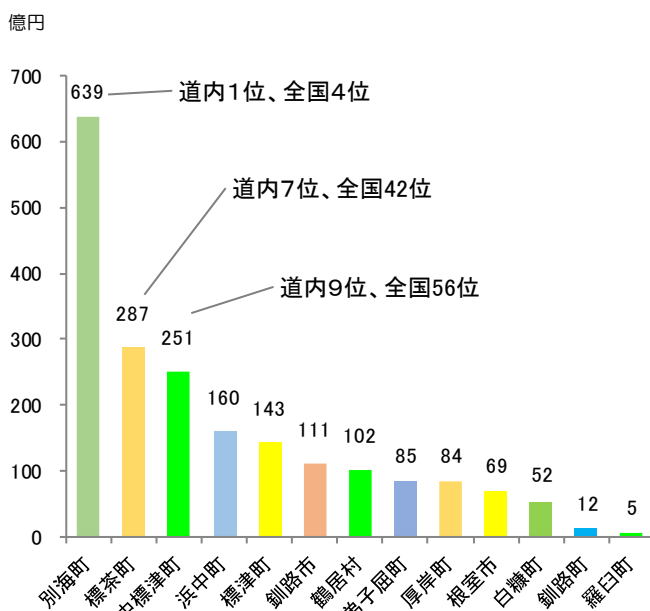
資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」  
注：その他には、麦類、雑穀、豆類、いも類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、豚、鶏、その他畜産物が含まれている。

### 品目別農業産出額の割合（根室地域）



資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」  
注：その他には、麦類、雑穀、豆類、いも類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、豚、鶏、その他畜産物が含まれている。

### 地域内の市町村別農業産出額



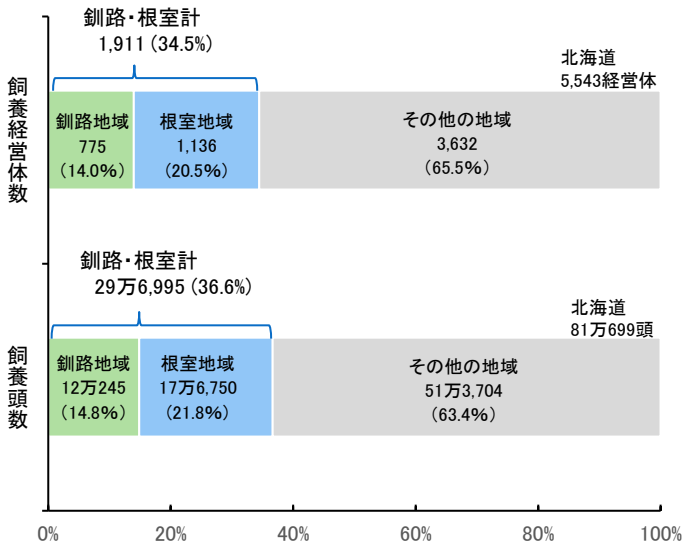
資料：農林水産省統計部「市町村別農業産出額（推計）」

## 2 主要農畜産物の生産等の状況

### 乳用牛

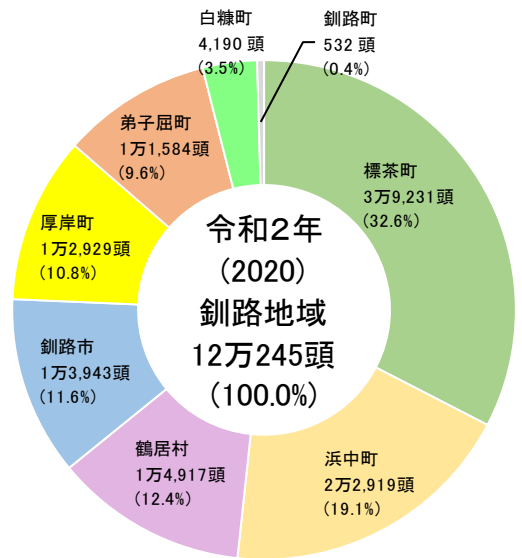
- ・乳用牛の飼養経営体数は、1,911経営体（釧路地域：775経営体、根室地域：1,136経営体）で、北海道の34.5%（同：14.0%、同：20.5%）を占めている。また、飼養頭数は29万6,995頭（同：12万245頭、同：17万6,750頭）で、北海道の36.6%（同：14.8%、同：21.8%）を占めている。
- ・市町村別の飼養頭数は、別海町が10万4,726頭と10万頭を超え道内第1位、次いで標茶町、中標津町の順となっており、道内順位の3位までを釧路・根室地域の市町村が占めている。
- ・1経営体当たりの飼養頭数は、釧路地域で155頭、根室地域で156頭であり、1経営体当たりの飼養頭数は5年前と比べ、釧路地域で21.1%、根室地域で15.6%それぞれ増加している。

#### 飼養経営体数、飼養頭数の割合（令和2年）



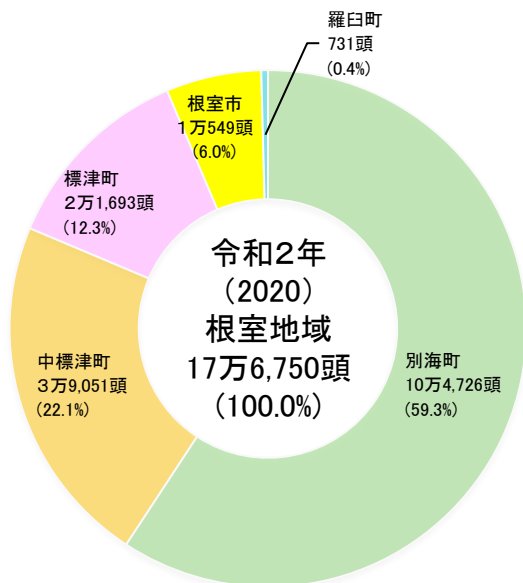
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

#### 市町村別の飼養頭数割合（釧路地域）



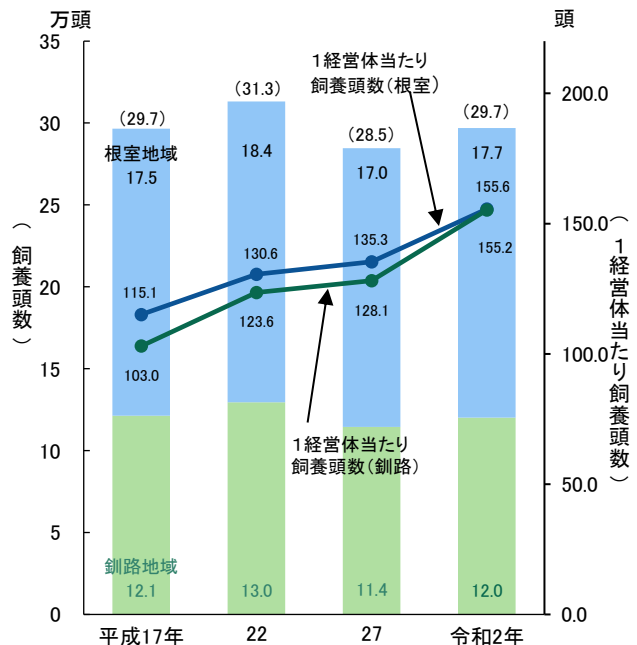
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

#### 市町村別の飼養頭数割合（根室地域）



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

#### 飼養頭数の推移（釧路地域・根室地域）



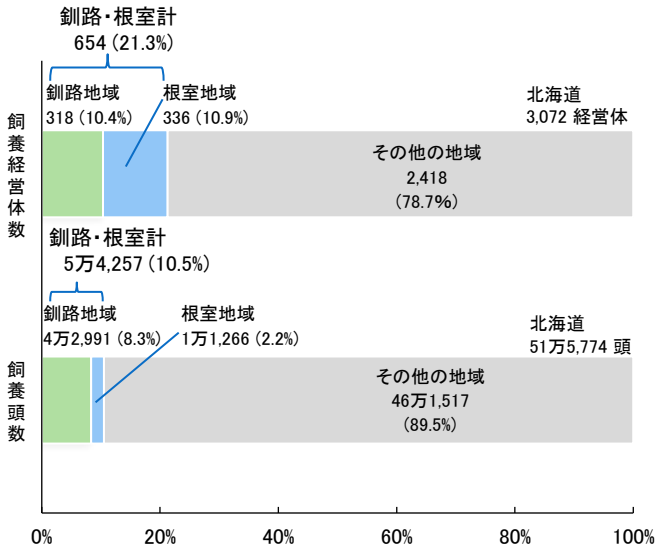
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

## 肉用牛

- 肉用牛の飼養経営体数は、654経営体（釧路地域：318経営体、根室地域：336経営体）で、北海道の21.3%（同：10.4%、同：10.9%）を占めている。また、飼養頭数は5万4,257頭（同：4万2,991頭、同：1万1,266頭）で、北海道の10.5%（同：8.3%、同：2.2%）を占めている。
- 市町村別の飼養頭数※は、多い順に標茶町、別海町、釧路市となっている。
- 1経営体当たりの飼養頭数は、釧路地域で135.2頭、根室地域で33.5頭となっている。

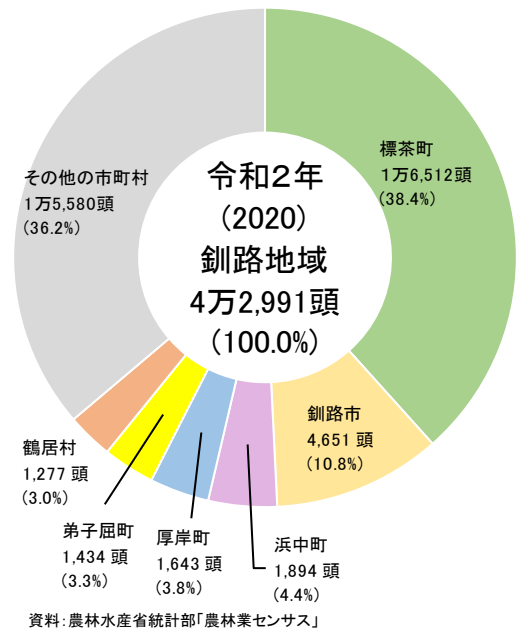
※飼養頭数は、公表されていない市町村を除いて算出している。

### 飼養経営体数、飼養頭数の割合（令和2年）



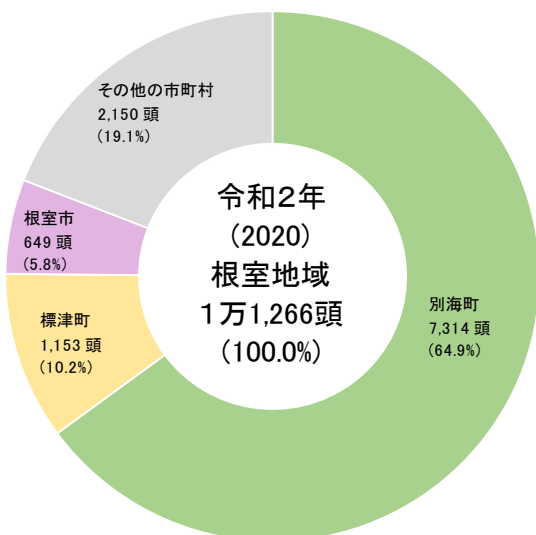
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 市町村別の飼養頭数割合（釧路地域）



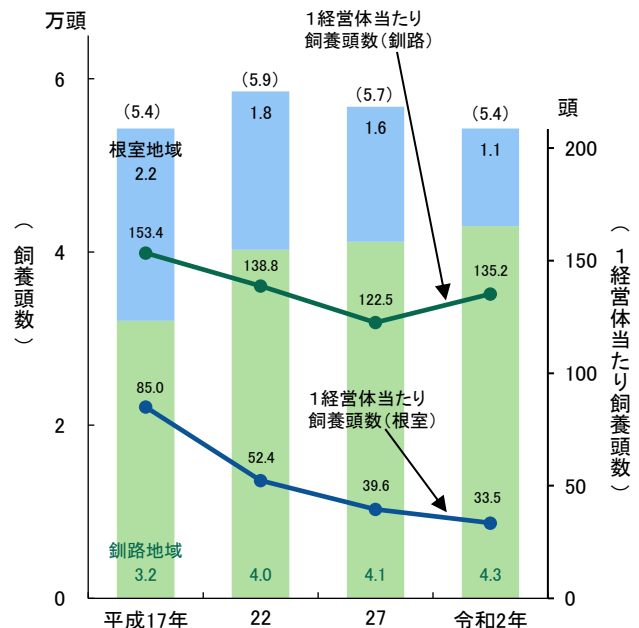
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 市町村別の飼養頭数割合（根室地域）



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

### 飼養頭数の推移（釧路地域・根室地域）



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

## 第3 地域の取組事例

## 1 地域と子ども達の協働による食農教育活動で地域を活性化

なかしべつ  
中標津町

【牛との触れ合い体験】



【カボチャの植え付け】



【令和5年度ディスカバー農山漁村の宝で優秀賞・特別賞】

### 高校生の力で未来の農村を盛り上げる！ (北海道中標津農業高等学校)

中標津農業高等学校は、酪農を基幹産業とする中標津町へ恩返しをしたいと、管内(計根別地域)の子ども達に食農教育を行う活動を平成18年から始め、現在も継続中です。

「高校生が主体となって子ども達へ指導を行うこと」「日々の授業の学びと活動がリンクすること」「地域の全ての子どもに対して活動を行うこと」の3点を基本に、幼稚園児から中学生まで、毎年約200名の子ども達に対して、「酪農管理体験」「生乳を使ったアイスクリーム製造体験」「ばれいしょや小麦など町の特産品の栽培」「ハロウィンかぼちゃ栽培とランタン加工や飾り付け」などの体験教育を行っています。

体験教育を進めるにあたり、小・中学校の時間割に組み入れてもらうことが課題でしたが、話し合いを重ね、活動の趣旨を理解していただきました。また、食育学校・地域イベントサポーター(地域の企業や大人)は年々増加しており、地域と子ども達の協働による食農教育活動が展開されています。

先進的な食育モデルとして、道内外で注目される活動へと発展、今後は、町内の各学校との共催など活動の輪を広げ、若い力で主体的に地域農業を盛り上げ、農業を通じた地域の振興・活性化を目指しています。

令和5年には、長期的で独自性のある活動が評価され、「第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」で、コミュニティ・地産地消部門「優秀賞」に加え「特別賞」にも選定されました。

## 2 オール厚岸産のウイスキー造りを目指して

あつけし  
厚岸町

【蒸留装置のポットスチル】



【厚岸産牡蠣とのマリアージュ】

### 厚岸産牡蠣とのマリアージュで地域活性化へ

(けんてん 堅展実業株式会社厚岸蒸溜所)

社長の樋田恵一ひだ けいいち氏は、日本のクラフトウイスキーを英国などへ輸出するビジネスを始めた直後、世界的なクラフトウイスキーブームにより輸出用クラフトウイスキーの入手が困難になった状況から、「手に入らないのなら自社で製造しよう」と考え、蒸留所の建設を決意されました。

建設地は、昔から憧れていたウイスキーの本場である英国・スコットランドのアイラ島に風土や気候が似ている厚岸町を選定。現在では、ウイスキーの原料となる大麦、ピートや原酒を熟成するミズナラの樽まで「オール厚岸産」にこだわったウイスキー製造に取り組み中です。

冷涼湿潤な厚岸町では難しいとされた大麦の栽培ですが、地元のJA釧路太田など関係者の協力を得て、2017年に試験栽培を開始。試行錯誤を重ねた結果、安定した生産体制を実現しました。

こうした取組の成果として、「厚岸ブレンデッドウイスキー処暑(しよしよ)」が英国の国際品評会「ワールド・ウイスキー・アワード(WWA)2022」ブレンデッド部門で世界最高賞を受賞しました。

## 3 国の地理的表示(GI)保護制度に登録

はまなか  
浜中町

【浜中養殖うに】



【こんぶを給餌の様子】

地域資源循環型養殖技術を確立し身入りや色調均一な「浜中養殖うに」をGI登録  
(浜中水産物振興協議会)

浜中町では、うにの増殖対策と並行して、水揚げの少ない冬期間の収入確保や後継者対策を目的に、町独自の「うに完全養殖」に向けた取組を開始しました。

生育環境調査を経て、完全養殖の試験を重ねた結果、養殖うにの初出荷に成功しました。町内の2つの漁協及び関係者で協議会を設立し、「浜中養殖うに」としてブランド名を統一しました。

令和3年3月、国の地理的表示(GI)保護制度に申請し、令和5年7月20日、北海道内で8番目、釧路・根室管内では初となるGI登録が実現しました。

「浜中養殖うに」は、身色がオレンジ色に近い濃い黄色で、色や大きさがそろったエゾバフウニで、クリーミーな口溶けと苦みや雑味のない濃厚な味わいが、市場等から高く評価されています。

GI登録以降、市場における取引価格が上昇したことにより、養殖うにに漁業者の収入も増加しました。

また、陸に流れ着いたこんぶを給餌することで、資源を無駄なく有効活用し、地域循環型の生産体制を実現しています。

漁業者は、こんぶ漁(漁期:6~10月)以外に、水揚げの少ない冬期間には出稼ぎに行っていましたが、高値で需要のある養殖うにの生産により、年間を通じた漁業が可能となり、安定した収入が得られるようになりました。このことが魅力となり、後継者の育成にもつながっています。

## 4 数多くの酪農体験メニューで酪農の魅力をアピール

てしかが  
弟子屈町

【体験牧場全景】



【トラクター草原周遊】

人と人との会話、ふれあいを大切に、命のあたたかさ・食料の大切さ・自然の大切さを学べる牧場  
(有限会社渡辺体験牧場)

ましゅうこ くっしやろこ

摩周湖、屈斜路湖などがあり、観光地としても有名な弟子屈町にある有限会社渡辺体験牧場は、アルバイト経験者から「良い経験ができた」との評判が、口コミで広がりを見せたことをきっかけに、平成9年に体験型牧場を立ち上げました。現在は、全国酪農教育ファームの認定を受けています。

体験メニューには「乳搾り・えさやり」「アイスクリーム・バター作り」「トラクターで大草原周遊」「子牛とのふれあい体験」などの多彩なメニューが用意され、命の温かさ、食の大切さ、人と自然との共生を学ぶことができます。

また、摩周草原の自家牧場に放牧されるのんびり過ごした牛から搾った生乳を原料とした数多くの乳製品を製造販売しています。

修学旅行、企業の研修先としても利用され、「3年後に自分へ届く手紙」という新しい企画も好評を得ています。

多くの来場者を受け入れ、酪農のPRと地域の活性化に貢献することを目指しています。

令和元年には、酪農の普及・啓発の取組等が評価され、「第6回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の優良事例に選定されました。

## 5 担い手育成のため町・JA・民間事業者が共同出資

しべちや  
標茶町

【株式会社 TACSしべちや全景】



【搾乳室(ミルクングパーラー)】

離農跡地を活用した草地型酪農の普及と研修施設併設による担い手育成の出資型法人  
(株式会社TACSしべちや)

株式会社TACSしべちやは、離農者や出荷乳量の減少に歯止めをかけるために、標茶町農業協同組合、雪印種苗株式会社、標茶町が出資して平成25年に設立され平成27年から搾乳を開始しています。

成牛300頭、育成牛180頭規模のフリーストール牛舎※、30頭規模の哺育舎、ミルクングパーラー(18頭ダブル)、餌寄せロボットなどを整備しています。施設整備は「強い農業づくり事業」、北海道の「地域づくり推進事業」を活用しました。農地は、約200haで、農地中間管理機構を通して借り受けています。

同牧場は、草地型酪農による低コスト経営を実践し、地域へ普及する役割を担うと同時に、新規就農者の研修施設としての役割も併せ持ち、担い手確保と育成にも貢献しています。

※フリーストール牛舎…牛を繋ぎずに飼養する方式。個別の寝床と広い通路を備え、牛は給餌や水飲み場へ自由に移動できる。

## 6 町内研修牧場の生乳を加工販売

べつかい  
別海町

【製造された乳製品】



【海外での販売】

【べつかいのアイスクリーム】  
(チョコレート・バニラ・抹茶)

製品に町名「べつかい」を使用し、べつかいブランドを確立！  
平成25年よりベトナムにアイスクリームを輸出！  
(株式会社べつかい乳業興社)

株式会社べつかい乳業興社は、「主役は生乳」をコンセプトとして製品製造を行い、生乳は全て別海町産を使用しています。

原料として使う生乳の90%は、町の第三セクターである有限会社別海町酪農研修牧場(新規就農者育成牧場)で搾乳されたものを使用しています。牛乳をはじめアイスクリームやバター、チーズ等の乳製品を製造し、べつかいブランドを確立。さらに、大手コンビニチェーンや道内の和洋菓子店等と連携し、新商品の製造・販売を通じて別海町を全国に大きくPRしています。

平成25年よりベトナムにアイスクリームの輸出を開始し、北海道貿易物産振興会、北海道アイスクリーム輸出促進協議会を通じて輸出販路の拡大を進め、ベトナムのほか、台湾やシンガポールへの輸出を確立しています。

平成28年には、地域全体での取組等が評価され、「第3回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」のグランプリに認定されました。

## 7 北海道で南国の果物マンゴー栽培へ！

てしかが  
弟子屈町

【収穫を迎えたマンゴー】



【マンゴーの花】

栽培面積を拡大しつつ、輸出にもチャレンジ  
(株式会社ファームピープル)

釧路市で通信工事業を営んでいた村田<sup>みつむね</sup>光宗氏は、事業の経営が良好なうちに別の経営基盤を模索していたところ、一次産業の農業に着目。当時は、宮崎マンゴーが濃厚で美味しいと流行っていたことから、北海道でも南国の果物を栽培できれば面白いと思い、マンゴー栽培へのチャレンジが始まりました。

栽培に当たって温泉熱を加温に利用したいと考え、湯温の高い弟子屈町で、平成23年に株式会社ファームピープルを設立、翌年には、自身で建設したビニールハウス2棟で試験的にマンゴーの栽培を開始。マンゴーは花を咲かせることが難しく、3年間には満足な成果が出ませんでした。知合いを頼りに、鹿児島県のマンゴー栽培の専門家に指導を仰ぎながら、地道に栽培ノウハウを学びました。

温泉熱と冷涼な気候を利用して人工的に寒暖差をすることで、マンゴーの糖度を高めることに成功し、一般的にブランドとされる基準糖度15度を上回る糖度18度のマンゴーができるようになり、「摩周湖の夕日」のブランド名で地元販売はもとより、現在は弟子屈町のふるさと納税返礼品や郵便局のふるさと小包にも採用されています。

温泉熱の利用は、化石燃料を使用しない環境に優しい持続可能なクリーンエネルギーとして、二酸化炭素の排出削減に寄与し、環境負荷低減にもつながっています。

## 8 困難と言われていた「酪農」と「障がい者」がパートナーシップ！

くしろ  
釧路市【テープで色分けし使用  
機具を明確化】

【牛舎内清掃・整備】



【ミルクー装着】

【農福連携】牧場内作業の明確化・マニュアル化で障がい者雇用を実現  
(有限会社<sup>じんせい</sup>仁成ファーム)

有限会社仁成ファームでは牧場の規模拡大に伴い、求人募集を行ったものの、人が集まりませんでした。そのような中、「農福連携」制度を知り、農業改良普及センターや市役所等に相談を行い、後に音羽協働センター（就労継続支援A型）を設立し代表となる梅野氏に出会い、酪農現場で可能な障がい者の労働内容について検討を重ねました。

平成29年11月に音羽協働センターが設立され、当該センターに搾乳室清掃作業を委託し、障がい者の受入れを開始しました。

委託当初は障がいの度合いにより作業の習熟が難しいこともありましたが、あいまいな作業方法や手順を明確化して、作業の分割化・マニュアル化を行い、まずは、できる人が作業を行うスタイルに変更しました。

その結果、障がい者雇用拡大として1名を社員として雇用できました。また、各作業を明確化したことにより、従業員、障がい者ともに働きやすい環境ができたこと、作業中のリスク回避及び効率アップにもつながりました。

今後は、会社の一部門として障がい者雇用を取り入れていく経営体になっていきたいと考えており、そのために、GAPの考え方を取り入れた安全な酪農経営の構築を目指し、個人の能力差を少しでも減らせるようにマニュアルの細かな見直しを行っていきたいとのことです。

9 酪農家が自ら酪農業や地域(自然など)の魅力を発信

ねむろ  
根室市



【農家レストランATTOKO】



【和牛・根室短角牛の  
サーロインステーキ】



【小さな雑貨屋Étable  
& 酪農喫茶Grassy Hill】

窓から見える景観と、自社産生乳・短角牛肉を使用した料理を提供！酪農の魅力を伝える農家レストラン「ATTOKO」！

(有限会社伊藤畜産)

有限会社伊藤畜産は、酪農・肉用牛経営を行いながら、農業の枠にとどまらず様々な取組で、酪農や地域の魅力を伝えています。

平成26年5月に農家レストラン「ATTOKO」を開業。自社産短角牛肉を使ったステーキやハンバーグ料理等を提供しており、平成30年3月には、小さな雑貨屋Étable & 酪農喫茶Grassy Hillをオープンし、自社生乳を使ったソフトクリーム・ケーキ・菓子も販売しています。

同世代の酪農家とともにフットパス※を整備することを中心に、キャンプ場、また、豚・ヤギ・羊などを放した「あつとこ家畜動物園」を併設するなど、地域の観光・交流の拠点として、牧場が持つ景観と安らぎを市民と共有することで地域の活性化を図っています。

農山漁村地域が持つ魅力を観光資源に活用した取組として、さらなる展開が期待されています。

※フットパス・・・イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径【Path】」のこと

10 アジア初「AMR」(オートマチックミルクロータリー)導入

なかしべつ  
中標津町



【AMR本体】



【搾乳室】

AMR導入により労働力不足を解消し、若い人が働きたいと思える魅力ある農場づくりを目指す

(有限会社希望農場)

有限会社希望農場(搾乳牛260頭)は、畜産クラスター事業を活用し、ウィンドレス型フリーストール牛舎を新設するとともに、アジア初となるAMR(ロータリー型搾乳ロボット)を導入しました。

AMRは24ポイントロータリーの内側にアーム型ロボットが5台設置され、1日1,600回の搾乳が可能となっており、1日2回の搾乳で800頭、3回搾乳では533頭に対応可能な能力を有するほか、1回の搾乳につきスタッフ1名の対応で済むため、人件費の削減や労働力不足の問題解決が期待されています。また、AMRは個室型ロボットとは異なり、スタッフがパーラーへ牛を誘導する際に1頭1頭の牛の健康状態を確認することができるともAMR導入の決め手となっています。

佐々木代表取締役は「主役はあくまで『牛』であり、管理する人間はより高いマネジメント能力を求められるが、若い人が働きたいと思える農場を作っていくためにも、先進的な経営モデルの確立を目指したい」としています。

また、令和2年8月には、JGAP認証を取得し、従業員の経営意識の向上に取り組んでいます。

## 11 第三者継承で新規就農 就農後3年でアイスクリーム販売を開始

てしかが  
弟子屈町【原料となる生乳を生産する  
ブラウンスイス種】【カチカチの食感にこだわった  
アイスクリーム】酪農家になったことで、家族との時間が増える  
(牧之瀬牧場)

弟子屈町で平成30年に新規就農した牧之瀬<sup>まきのせ</sup>佳貴氏・智子氏夫妻は、カナダの大学で出会い、卒業後結婚し、千葉県に居を構え、サラリーマンとして東京に通勤。第1子出産がワークライフバランスを見直すきっかけになり、偶然入った北海道物産展で開催していた就農相談窓口で話を聞き、その後全国規模の就農相談会に参加し、弟子屈町に移住することを決意しました。

弟子屈町への就農の決め手は、美しい自然。生涯にわたり住み続けたいと思い、平成28年8月から弟子屈町内の牧場で研修を開始。平成29年5月から、第三者継承予定の牧場で研修後、平成30年4月に牧場を譲り受け新規就農。ホルスタイン種のほかに、ブラウンスイス種、ジャージー種を導入し、昼夜放牧酪農を行っています。

異業種からの新規就農や研修期間中の生活費の不安がありました。国や北海道、町、JAの支援制度や周りのサポートがあり、不安がやる気になりました。就農後は労働時間や生活スタイルを変えずに副収入を得る方法を模索し、令和3年7月アイスクリームの製造販売を開始。製造は管内の業者に委託することで、労働時間の変化はなく、また、アイスクリームの差別化を図るため、ブラウンスイス種(通常1頭で、製造最低ロットに満たない場合は2頭)の生乳しか使用しないことで差別化を図り、ふるさと納税返礼品にも選ばれる等、大変好評です。

酪農家になったことで、家族との時間も増え、ワークライフバランスを考慮した働き方が可能になり、今後は作業の効率化を図り、実労働時間を縮小し、収益を向上させるシステムを構築していきたいとのこと。

## 12 バイオガス発電による環境負荷軽減の取組、新たな収益を確保

つるい  
鶴居村

【伊藤デiryー外観】



【バイオガスプラント全景】

厄介者だった家畜排せつ物がエネルギーに変わる  
(株式会社伊藤デiryー)

株式会社伊藤デiryーは、大正8年に入植し、100年以上続く酪農家です。「休める酪農」を実現するため平成19年に法人化し、働いてくれる人が自分たちの仕事に誇りを持ち、酪農に携わってよかったと思える企業づくりと、日々、牛たちがリラックスして過ごせる環境づくりを行っています。

飼養頭数の増加に伴いフリーストール牛舎を導入しましたが、スラリー状の家畜ふん尿処理が必要となったため、令和元年にバイオガスプラントを建設し、稼働を開始しました。

メタン発酵により発生したガスをエネルギーとして利用した発電や、発電時に発生する余熱の利用、また、消化液を肥料として活用することで、これまで厄介者であった家畜排せつ物を活用した環境負荷軽減の取組につなげています。

併せて、発電した電気を売電することによる安定した収益と、資源循環によるコストの削減を実現しました。

市町村別の総土地面積、耕地面積、総人口等

市町村	総土地面積		耕地面積						総人口		世帯数		農業 経営体数	
	道内 シェア		計	道内 シェア	田	道内 シェア	畑	道内 シェア	道内 シェア		道内 シェア		道内 シェア	
	km <sup>2</sup>	%	ha	%	ha	%	ha	%	人	%	戸	%	経営体	%
<b>釧路地域</b>	<b>5,996</b>	<b>7.2</b>	<b>88,300</b>	<b>7.8</b>	-	-	<b>88,300</b>	<b>9.6</b>	<b>208,795</b>	<b>4.1</b>	<b>120,072</b>	<b>4.3</b>	<b>1,100</b>	<b>3.5</b>
釧路市	1,363	1.6	10,400	0.9	-	-	10,400	1.1	154,271	3.1	91,270	3.2	151	0.5
釧路町	252	0.3	923	0.1	-	-	923	0.1	18,380	0.4	9,638	0.3	23	0.1
厚岸町	739	0.9	8,980	0.8	-	-	8,980	1.0	8,195	0.2	4,210	0.1	108	0.3
浜中町	423	0.5	14,600	1.3	-	-	14,600	1.6	5,246	0.1	2,546	0.1	203	0.7
標茶町	1,099	1.3	28,900	2.5	-	-	28,900	3.2	6,836	0.1	3,583	0.1	304	1.0
弟子屈町	774	0.9	10,200	0.9	-	-	10,200	1.1	6,432	0.1	3,696	0.1	136	0.4
鶴居村	572	0.7	9,360	0.8	-	-	9,360	1.0	2,432	0.0	1,187	0.0	97	0.3
白糠町	773	0.9	4,790	0.4	-	-	4,790	0.5	7,003	0.1	3,942	0.1	78	0.3
<b>根室地域</b>	<b>8,499</b>	<b>10.2</b>	<b>109,800</b>	<b>9.6</b>	-	-	<b>109,800</b>	<b>12.0</b>	<b>67,754</b>	<b>1.3</b>	<b>34,781</b>	<b>1.2</b>	<b>1,362</b>	<b>4.4</b>
根室市	408	0.5	9,370	0.8	-	-	9,370	1.0	22,468	0.4	12,074	0.4	105	0.3
別海町	1,317	1.6	63,200	5.6	-	-	63,200	6.9	13,964	0.3	6,822	0.2	750	2.4
中標津町	685	0.8	24,400	2.1	-	-	24,400	2.7	22,257	0.4	11,513	0.4	355	1.1
標津町	625	0.7	12,100	1.1	-	-	12,100	1.3	4,798	0.1	2,369	0.1	143	0.5
羅臼町	398	0.5	722	0.1	-	-	722	0.1	4,267	0.1	2,003	0.1	9	0.0
北方地域	5,003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：国土交通省国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(令和7年7月1日)」北方地域の総土地面積は歯舞群島、色丹村、泊村、留夜別村、留別村、紗那村、琴取村の合計。

農林水産省統計部「農林水産関係市町村別統計(令和6年)」、「2020年農林業センサス」  
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和7年1月1日現在)」

注：ラウンドの関係で、計と内訳は一致しない場合がある。

風連湖は水面が境界未定のため、根室地域の総土地面積に含まれているが根室市・別海町の総土地面積には含まれていない。

市町村別の農業産出額(推計)

単位:1,000万円

市町村	農業産出額		耕 種										畜 産							
	道内順位	道内順位	小 計		米	麦類	雑穀	豆類	いも類	野菜	工芸農作物	その他農作物	小 計		肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	その他畜産物
			道内順位	道内順位									道内順位	道内順位						
<b>釧路地域</b>																				
釧路市	1,107	41	47	126	-	0	-	0	0	33	-	14	1,060	21	91	850	779	x	35	x
釧路町	115	147	75	112	-	-	-	-	-	74	0	0	40	125	5	35	32	-	-	0
厚岸町	844	58	0	169	-	-	-	-	0	0	-	0	844	31	28	815	754	-	-	0
浜中町	1,600	20	8	150	-	-	-	-	-	-	-	8	1,593	10	50	1,456	1,350	x	-	x
標茶町	2,872	7	55	122	-	-	0	-	0	48	-	6	2,817	2	419	2,201	1,969	-	0	198
弟子屈町	850	57	83	107	-	8	4	1	44	2	21	2	767	35	43	704	645	x	-	x
鶴居村	1,021	50	2	167	-	-	0	0	-	0	-	1	1,019	22	28	932	859	x	0	x
白糠町	515	85	3	161	-	-	-	0	0	2	0	1	512	51	236	249	227	-	0	27
<b>根室地域</b>																				
根室市	685	69	3	160	-	-	-	0	0	1	-	3	682	41	17	663	612	0	0	3
別海町	6,393	1	27	138	-	1	6	-	0	4	-	x	6,367	1	191	6,056	5,468	0	2	118
中標津町	2,512	9	128	99	-	3	14	0	41	52	7	12	2,384	4	54	2,308	2,097	x	0	x
標津町	1,434	24	17	141	-	0	3	-	2	7	0	5	1,417	13	26	1,281	1,163	x	-	x
羅臼町	49	159	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	119	0	49	46	-	-	-

資料：農林水産省統計部「令和5年市町村別農業産出額（推計）」

注1：「市町村別農業産出額（推計）」は、都道府県別農業算出額を農林業センサス及び作物統計を用いて市町村別に按分して作成したものである。

注2：その他農作物は、果実、花き及びその他作物の計であり、秘匿措置が講じられている品目を除いて単純に合算したものである。

注3：道内順位の順位付けは、原数（100万円）により判定したものである。